

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	公民:公共(必履修)		単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめたり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論および表現したりする力を身につける。また、よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身につける。			
使用教材	教科書「数研出版 高等学校 公共」			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼンテーション内容などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	<p>○「公共的な空間をつくる私たち」(青年期と自己形成／人間としての自覚／日本人としての自覚)というテーマで、その概念や理論を学ぶとともに、多様な観点から諸課題を考察したり、まとめたことを表現したりする。</p> <p>○「公共的な空間における人間」(西洋近現代の思想／現代の諸課題と倫理)というテーマで、その概念や理論を学ぶとともに、多様な観点から諸課題を考察したり、まとめたことを表現したりする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の特徴と発達課題、及び個人、社会、伝統・文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。</li> <li>・現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。</li> <li>・生命倫理や環境倫理にかかわる課題について、功利主義や義務論の視点から考察し議論する。</li> <li>・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解する。</li> <li>・これらがなぜ公共的空間の基本的原理とされるのか、また、それらを実現する上での課題について考察する。</li> </ul>	
2	<p>○「公共的な空間における基本原理」(民主社会の基本原則／日本社会の基本原則)というテーマで、その概念や理論を学ぶとともに、多様な観点から諸課題を考察したり、まとめたことを表現したりする。</p> <p>○「政治に参加する私たち」(政治参加と民主政治の課題／国際政治の動向／国際政治の課題と日本の役割)というテーマで、その概念や理論を学ぶとともに、多様な観点から諸課題を考察したり、まとめたことを表現したりする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解する。</li> <li>・地方政治、国政に関する課題について、民主政治や民意の反映などの視点から解決に向けて考察し表現する。</li> <li>・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。</li> <li>・法の意義と役割、消費者の権利と義務、司法参加などにかかわる課題について考察し表現する。</li> <li>・国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題について、実際の国際社会の事象とも関連させながら理解し、国際政治にかかわる諸課題について多面的・多角的に考察する。</li> </ul>	
3	<p>○「経済活動を行う私たち」(経済のしくみと産業の変化／市場経済のしくみと金融／財政と社会保障／国際経済の動向と課題)というテーマで、その概念や理論を学ぶとともに、多様な観点から諸課題を考察したり、まとめたことを表現したりする。</p> <p>○持続可能な社会づくりについて、次世代を担うために必要な知識を学び、それらを探究活動に活かす。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済活動の意義や経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働きなどについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。</li> <li>・経済のしくみや動向についての基礎的理解を基に、経済政策、財政や金融に関する政策課題、社会保障にかかわる課題について関心を持って考察し追究する。</li> <li>・資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。</li> <li>・職業の特性の理解の上に、職業選択を自らの課題として考察する。また、労働と雇用にかかわる諸問題について考察する。</li> <li>・貿易・国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済などについて、実際の国際社会の事象とも関連させながら理解し、国際経済にかかわる諸課題について多面的・多角的に考察する。</li> <li>・持続可能な社会の形成に参加するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解や現代に生きる人間としての在り方・生き方について考察を深める。</li> </ul>	
学習上の留意点	普段よりニュースや新聞などに目を通して、現在起きている社会の出来事について注目することが重要である。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	公民:倫理(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりするとともに、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。		
使用教材	教科書「清水書院 新倫理」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索するとともに、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとするとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究  第2編 人間としての自覚 第1章 哲学の始原:ギリシア思想 第2章 唯一神の宗教:キリスト教・イスラム教 第3章 東洋思想の源流:仏教・儒教 第4章 芸術と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解する。</li> <li>・心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。</li> <li>・それぞれの世界宗教の知見を手がかりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。</li> </ul>	
2	第3編 現代をかたちづくる倫理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、正義、義務などに着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの在り方生き方について考察する。</li> <li>・世界を捉える知の在り方を論じた現象学や経験論、合理論を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察する。</li> </ul>	
3	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と精神文化 第2章 日本の近代化と人々の生き方  第5編 現代における諸課題の探究 第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 第2章 社会や文化にかかわる諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。</li> <li>・外来思想である仏教や儒教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。</li> </ul>	
学習上の留意点	教科書にもとづいて授業を進めていく。授業内で取り上げた思想家などで気になるものがあれば、図書館で調べるなどして学習した内容を各自で深めてほしい。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	公共:政治・経済(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	広い視野に立ち、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考え、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。		
使用教材	教科書「実教出版 詳述 政治・経済」 テキスト「大学受験Nシリーズ『蔭山の共通テスト政治・経済』」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想する力や構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身につけている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄をはかることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	第1編 現代日本の政治 第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構 第4章 現代日本の政治	現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につける。	
2	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上	経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	
3	第3編 現代日本における諸課題の探究 第2部 グローバル化する国際社会の諸課題	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。	
学習上の留意点	教科書に沿って授業を進めていく。普段よりニュース番組や新聞などに目を通して、現在起きている社会の出来事について興味関心をもつ。また、定期的に小テストを行う。十分な復習をした上で小テストに臨むこと。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	公民:倫理(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方についての理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。			
使用教材	教科書「数研出版 改訂版 倫理」			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(資料活用の技能)	(知識・理解)
	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方・生き方について自覚を深めようとしている。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察・探究し、良識ある公民として広い視野にたつて主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方・生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方・生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に活かす知識として身につけている。
評価方法	関心・意欲・態度の観点については、提出物が提出されているか、授業に積極的に参加しているかを踏まえ評価する。また、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点については、提出物の内容やペーパーテストを通じて評価する。以上の評価によって総合的に判断する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	第1編 現代に生きる自己の課題  第2編 人間としての自覚 第1章 西洋思想の源流 第2章 東洋思想の源流		・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解し、豊かな自己形成に向けて他者と共に生きる自己の生き方について考えとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえる。 ・人生における哲学、宗教、芸術の持つ意義などについて理解し、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を思索することを通して、人間としての在り方・生き方について考えを深める。	
	第3編 現代に生きる人間の倫理 第1章 西洋近代の思想 第2章 現代の思想		・現代に生きる人間の倫理的な課題について考えを深め、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方・生き方について自覚を深める。 ・人間尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身につけ、他者とともに生きる自己の生き方に関わる課題として考えを深める。	
3	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の伝統思想と東洋思想の受容 第2章 西洋思想の受容と近現代の日本の思想  第5編 現代の諸課題と倫理		・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、わが国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己との関わりにおいて理解し、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方・生き方について自覚を深める。 ・生命、環境、家庭・地域社会、情報社会、世界のさまざまな文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究し、現代に生きる人間としてのあり方・生き方について自覚を深める。	
学習上の留意点	教科書にもとづいて授業を進めていく。授業内で取り上げた思想家などで気になるものがあれば、図書館で調べるなどして学習した内容を各自で深めて欲しい。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	公民:政治・経済(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考え、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。			
使用教材	教科書「第一学習社 高等学校 改訂版 政治・経済」			
評価の観点・評価基準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(資料活用の技能)	(知識・理解)
	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、客観的に考えようとする態度を持ち、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現に向けて主体的に参加、協力しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方をふまえて公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な資料を収集し、有用な情報を主体的に選択し活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質および動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	関心・意欲・態度の観点については、提出物が提出されているか、授業に積極的に参加しているかを踏まえ評価する。また、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点については、提出物の内容やペーパーテストを通じて評価する。以上の評価によって総合的に判断する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治と日本		現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解するとともに、民主政治の本質について追及し、政治についての基本的な見方や考え方を身につける。	
2	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済		現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化を始めとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解するとともに、その特質を追及し、経済についての基本的な見方や考え方を身につける。	
3	第3編 現代社会の諸課題 第1章 現代日本の政治や経済の諸課題 第2章 国際社会の政治や経済の諸課題		政治や経済などに関する基本的な理解をふまえて、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深める。	
学習上の留意点	教科書に沿って授業を進めていくが、普段よりニュース番組や新聞などに目を通して、現在起きている社会の出来事について興味関心をもつ。また、日頃より教科書を読むなどの予習や復習を怠らないこと。特に、就職希望者で試験に一般教養がある者については受講することが望ましい。			